

# はにい

## 諸行無常

平成24年12月4日

「役割読み」「漸増法・漸減法」「乱れ読み」「追いかけ」「わたり」・・・、様々な技法を駆使して、群読を創り上げていく2年生です。

松岡先生は今回、この子たちのために、『平家物語』の学習に群読をとり入れました。

1年次、国語の授業になかなか乗ってこない生徒がいる中で、『竹取物語』での暗唱や、文学教材での朗読劇において、そういった生徒の生き生きと学ぶ姿が見られた。そこを活かそう。

これまで、何度も指導してきた『平家物語』ですが、自分があまり経験のない群読をとり入れようと決心し、勉強を始めたのにはそういう理由がありました。



—— 今回は、8通りの技法を生徒に提示してみました。ノウハウを与えることによって、いいものができる。いいものができるばうれいと思うんです。

先生が教室に抱えてきたたくさんの教具の中には、付箋紙がいっぱい貼ってある群読の新聞が顔をのぞかせています。子どもたちは、先生が自分たちのために勉強をしていることを知っています。

各グループの群読を聞いて子どもたちの書いた感想です。

「複数読みと一人読みの差がはっきりしていて、盛者必衰を感じさせていた。」

「わたりをやっているのがすごく良いと思いました。その発想はうかばなかったです。」

「声がそろっていて鳥肌が立つくらいに感じさせる表現の仕方でした。」

—— みんなの感想を読んでいると、私の考えていなかったようなことが書いてあったりするんですよ。

子どもからも学ぶ。そして、子どもが変われば授業も変わる。

何度も指導してきた『平家物語』ですが、どんなに経験を積んでも、授業は変わり続けていきます。

かながわ元気な学校づくり通信『はにい』とは、  
学校が元気になるように・・・

先生の仕事を受ける

学校に携わる大人たちがしていることを受ける

そして、もちろん子どもたちの育ちを受取る

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp